◇◇◇

神宮寺小学校
理科室通信

理科室からこんにちは

第 39 号

～　親子で理科を楽しもう　～　　　平成 21 年 4 月 27 日

◇◇◇

～ 帰化植物について ～

春のうららかな日，例によって土手を散歩する親子。
「お父さん，あの赤むらさきのお花，かわいいね。」
「そうだね。辺り一面すごいねえ。」
「なんていうお花なの？」
「ヒメオドリコソウ，と言うんだよ。」
「姫踊り子？　かわいい！」
娘さんはしゃがんで，花に語りかけました。
「こんにちは，踊り子さん！」
「はははは…，日本語だと通じないぞ。」
「えっ？えっ？　なんで？」

実はヒメオドリコソウは帰化植物。なんと，ヨーロッパ原産なのです。明治中期に日本に入ってきて，その後，その生命力の強さで日本中に繁殖しました。この様に，もともとは外国の植物なのに，日本に何らかの形で持ち込まれて定着・野生化したものを帰化植物というのです。その数は多く，

シロツメクサ　［ヨーロッパ］
ハルジオン・ヒメジョオン　［北アメリカ］
アメリカセンダングサ（のさばりこ）　［北アメリカ］
セイヨウタンポポ　［ヨーロッパ］
セイタカアワダチソウ　［北アメリカ］
コスモス　［メキシコ］

などなど，たくさんあります。植物の世界も国際化，などと言えば聞こえはいいのですが，それによって日本の在来種が駆逐されるとあっては看過できません。ブタナというタンポポによく似た草もヨーロッパが原産です。タンポポは茎が一本伸びて，その先に花をつけますが，ブタナは途中で茎が枝分かれして複数の花をつけるのが特徴です。これも，あっという間に日本各地に広がり，セイヨウタンポポと共に，日本のタンポポを追いやってしまいました。このように，植物の世界でも生存競争は厳しいのです。日本の生態系を守るためにも，これ以上野性化させない努力が必要だと強く思います。

「そっかぁ，知らなかった。じゃあどこの国の言葉だといいのかな。」
「ヨーロッパっていっても陸続きだからなあ。」
「ま，英語だと通じるよね。　じゃあ，あらためて。　Hello！」
ヒメオドリコソウは風にそよぎ，一斉にお返事したように見えました。